

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	九州産業大学
拠点のプログラム名称	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム
中核となる専攻等名	芸術研究科造形表現専攻
事業推進担当者	(リーダー) 下村耕史 教授 外8名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>寛永20年(1643年)頃に創始された乳白色の素地に、鮮やかな色絵(ことに赤)を施した柿右衛門様式の陶磁器は、日本が世界に誇る伝統的な文化財である。それは日本の陶磁器界の発展に貢献したばかりでなく、西洋の最初の磁器であるマイセン焼の発明を促すとともに西洋の陶磁器文化の発展に大きな影響を与えた。それにもかかわらず、今日までその全容について研究されているとは言い難い。本研究教育拠点は、柿右衛門様式陶芸研究センターを設立して、柿右衛門様式陶芸について、意匠研究、技法研究、歴史研究・カリキュラム開発の3研究部門からその全体像を解明するとともに、その成果を大学院の陶芸関係カリキュラムに反映させて、陶芸分野の高度専門職業人育成のプログラムを提案するものである。本拠点形成計画は、芸術と産業に2極化した世界の陶芸人材育成の在り方に一石を投じる世界的にも新しい方向を志向するものであり、我が国の伝統を生かす分野において、理論と技術と芸術性を兼ね備えた高度な人材を育成し、伝統工芸の水準の昂揚を目指す。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p><コメント></p> <p>日本が世界に誇る伝統工芸である柿右衛門様式の陶磁器を、真の意味で世界水準として確立し、発信できる拠点形成計画として期待する。若手研究者・学生の創作と研究が、人間国宝である14代柿右衛門氏の指導のもとで大きく開花する可能性が高い。これまで、ややもすれば、閉ざされた職人工場で営まれてきた陶磁器生産が、意匠・技法の面において、学術研究の水準で調査・開発されれば、日本の工芸の発展に大きな貢献が期待できる。</p>	
<p><革新的な学術分野であるポイント></p> <p>世界に誇る伝統的な文化財である柿右衛門様式の陶磁器について、技法・意匠・美術史・文化史などの観点から総合的に研究し、その全体像を解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。</p>	